



南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2022(令和4)年7月28日 第25号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞
高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776 web http://hidagobo.jp takayama@higashihonganji.or.jp

「信心の回路」と「共命鳥教化」

■なぜ別院を中心に教化を考えるのか

去る6月16日、坊守会から「なぜ別院を中心に教化を考えるのか」の講題をいただき研修を行った。この講題には2つの課題がある。1つは「信心の回路」、2つには「共命鳥教化体制」である。これは昨年『ひだ教報』に「十文字教化体制」としてすでに掲載している。再読願いたい。

■信心の回路

これは「座・座主・大衆功德」ということから知らされてくる。

かの仏もし莊嚴をなして、いずれの処にしてか座すると。このゆえにまず座を觀ずべし。既に座を知りぬ。すでに宜しく座主を知るべし。(中略)このゆえに次に大衆の功德を觀ず。

(『浄土論註』『真宗聖典』287頁)

論じていわく、(第一・願偈大意)この願偈は何の義をか明かす。かの安樂世界を觀じて、阿弥陀如来を見たてまつり、かの国に生まれんと願ずることを示現するがゆえなり。

(『浄土論』『真宗聖典』138頁)

『論』と『論註』をまとめれば、

「座」は安樂浄土、「座主」は阿弥陀如来、「大衆功德」はかの国に生まれんと願ずる者。

[座・座主・大衆功德]を習って、我々の「浄土真宗」の宗門が形成されている。以下、表のごとし。

大谷派教団には、三つの〔座〕と三つの〔御影〕があり、それぞれの願いがある。それは三つの〔大衆功德〕によって、具体的に使命・任務・活動となって展開される。簡単に言えば、各寺の同朋会等の教化を通じ推進員等を輩出して、所属寺院の枠を越えて、地域の中心道場である御坊別院に集い、地域の真宗文化の底上げを図る。その力が真宗本廟を支える力となっていく。

赤尾の道宗の言葉を通して、浄土真宗の宗門基盤となった教訓は次の通り。

あかおの道宗、もうされそうろう。「一日のたしなみには、あさつとめにかかさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様の御座候うところへまいるべしと、たしなむべし。一年のたしなみには、御本寺へまいるべしと、たしなむべし。

(『蓮如上人御一代記聞書』45)

(『真宗聖典』864頁)

これが真宗門徒の〔信心回路〕。この〔信心〕の静動脈の循環が「回路」である。

飛騨地域のご回壇は、具体的な形を取って300年続いている。飛騨の門徒が本山に取り持ち御坊報恩講に参拝する。そのお礼に、嘉念坊善俊上人をはじめ、本山歴代の門首御影を招来して、各会所をめぐり、本山及び飛騨御坊へのお取り持ちのお礼と一座の法座を開き、御坊報恩講、本山報恩講の参拝を勧める。飛騨学場の「教学」とご回壇の「教化」の二本柱は飛騨における命脈である。

▶ 「御坊」は宗祖・蓮如上人及び歴代門首の御影のことです。いわゆる「信心の人」(得度の人)をあらわす。明治9年、ご坊を「別院」の名称に変えた。「ご坊」の呼び名には宗教感情がある。別院で発行する機関誌は、『ひだご坊』『おおがき御坊』『名古屋御坊』『南御堂』等々である。

▶ 御坊別院は地方の真宗本廟であり、本廟を支える外堀であり、地方にとっては各寺院の外堀である。外堀が崩壊したら、何の教化もしていない寺院は消滅する。飛騨御坊を活かすことは飛騨地方の真宗相統を象徴することである。

■共命鳥教化

共命鳥教化は、すでにご存じの「十文字教化体制」の別称です。頭が二つ胴体が一つの鳥。一つの頭は〔教区一組一寺院〕の縦の教化。今一つは〔ご坊・別院〕の横の教化。この二つが共同して活動する時、胴体である飛騨の真宗教化は体力をつけてくる。

縦の教化〔教区教化〕…本山・教区・組・各寺・各門徒へと伝わる間接教化。弱点は末寺に行くほど熱意が伝わりにくく、同じ人の参加、すなわちマンネリ化。

横の教化〔別院教化〕…直接に各寺院、門徒、一般市民に伝わる。弱点は、すぐに効果が見えない。

両者ともにその特徴を生かす教化を目指す。一つの頭は口で水を飲む。二つ目の頭は口で米を食べる。

現在、宗門はまだなお「別院」の教化・改革に抜本的に手を付けていない。この調子だと全国52別院の多くは消滅するだろう。100年後には大谷派の教化力は地に墮ちると安易に想像される。

飛騨御坊
真宗教化センター長
三島 多聞



座	座主	大衆功德
真宗本廟 (根本道場)	御真影 ・今現在説法のお姿 ・同朋社会の顕現	世界の人々 【慶讃法要テーマ】 南無阿弥陀仏一人と生まれたことの意味をたずねていこう
御坊・別院 (中心道場)	等身・真向の御影 ・地域に影現して、今現在説法のお姿 ・同朋社会の実現	地域の人々(門徒・一般市民) ・別院と教区・組の「教別一体」となって、地域の真宗文化の底上げを図る。
各寺院・門徒お内仏 (開法道場)	安静型の御影 ・法脈相統のお姿で求道開法を勧めている	所属門徒・信徒 ・宗風の確立 ・帰敬式推進・同朋唱和推進・青少幼年教化、等々。

★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

第15回 全飛組門徒会研修会 兼第4回組門徒会研修

「全飛組門徒会研修会」は、従来より組門徒会員の任期の初めに開催されてきましたが、今期についてはコロナ感染状況を理由に1年延期し、今年9月5日、下記のとおり開催することとなりました。3年に1度、飛騨中の全組門徒会員が集う大切な行事で、第15回目を迎えます。

今回は、第4回組門徒会研修の合同開催、また、飛騨御坊を中心としたセンター教化の確かめの場として開催され、2つのテーマを掲げての開催となります(懇親会は中止いたします)。

7月20日付で開催案内を各ご寺院へ送付いたしておりますので、各ご住職におかれましては、ご出席の奨励及び参加者のご報告をくださいますようお願いいたします。

期 日：9月5日(月) 14:00~16:30 会 場：高山別院本堂

テ ー マ：①宗門の財務機構
②別院の歴史とご回壇教化、別院報恩講について
他、帰敬式法座についての説明

センター・別院巡回(教務所長巡回に合わせて実施)

8月以降、各組において開催される教務所長巡回に合わせて、今年度も飛騨御坊真宗教化センター並びに高山別院の巡回も実施いたします。

教務所夏季事務休暇

期間:8月10日(水)~17日(水) ※緊急の場合は別院までご連絡ください。

ご坊夏まつり リターンズ 8月16日(火)17:00 開宴

2年間の休止を経て、ご坊夏まつりが帰ってきました。新型コロナウイルス感染症の影響で制限されてきた、「出会う」「語り合う」「笑い合う」場の回復を願って開催いたします。

盆踊り~和太鼓 童心 飲食コーナー・子ども広場
復活させよう、ご回壇おどい!



■罪業性—強き者は弱きを伏す

その一つの悪というは、諸天人民蠕動の類、衆悪を為らんと欲えり。みな然らざるはなし。強き者は弱きを伏す。転た相剋賊し残害殺戮して迭いに相吞噬す。

善を修することを知らず。悪逆無道にして後に殃罰を受く。

(聖典66頁 『仏説無量寿経』下巻五悪段)

あらゆる生き物、実際は人間ですけど、全てみんな悪いことしようとしてしまう。そうしない人はいない。なぜかという「強き者は弱きを伏す」、強い者が弱いものをねじ伏せていく世の中が作られているからだ。強き者とは、強さとは力ということですね。力で押しつけて世の中を作り、力のない者はねじ伏せられていく。そういう世の中になっていく。だから「転た相剋賊し残害殺戮して迭いに相吞噬す」。力によってねじ伏せたり、ねじ伏せられたりする形で世の中が作られていく。ねじ伏せられるよりもねじ伏せる側になった方がいいですから、力を巡って「転た相剋賊して迭いに相吞噬す」と。「噬」(ぜい)は「噛みつく」という字ですね。呑み込んだり噛みついたりして争いが止まないと。「善を修することを

知らず。悪逆無道にして後に殃罰を受く」と。だんだん争いが高じ、争えば争うほど怨みが積もって、どんどん悪逆無道な形になっていって、後々大変なことになってしまうと。力でねじ伏せていくという形で世の中が作られていく、これが世の中の一番の問題だということです。

■娑婆・忍土

お釈迦様は、人間の世の中のことを別な言葉で「娑婆」といいます。今日、娑婆というと俗世間という意味ですが、もともとは「サーハー」というインドの言葉です。「南無阿弥陀仏」も同じで、「ナマース・アミダ・ブツダ」というインドの言葉の音であってこの6字の漢字には意味はありません。サーハーという言葉も、音を表すわけですから漢字には意味はありませんが、訳すと「力づくの世の中」となります。

力づくというのは、腕力もありますが、暴力や軍事力、経済力や政治力、そして権力。あらゆる形で力をもった者がねじ伏せる。力のない者は身を縮めて片隅で我慢するという形で人の世が作られる。

前のアメリカの大統領のトランプさんは「アメリカ ファースト」と言ったでしょう。ファーストというのは「〇〇よりもまず」という意味

です。まずアメリカの経済、繁栄がすべてだと。だからそのためには、難民や移民は後回しにするし、置き去りにされても仕方がない。そういう形で自分の人生も力で切り拓いていくべきものとなりますから、まずは能力、能力を培うためには学力、学力を培うのには、学校に行かなければいけない。その後もずっと準備して頑張らなければいけない。そうやって力を得ていくことがすべてだと。そうすると、力のない者は力の前に身を縮めて我慢するしかない。

だから、サーハーという言葉は、意味を訳すと「忍土」となります。なぜ忍土なのかというと、力を得て世の中を牛耳っていく人よりも、力なくして身を縮めて片隅で我慢する人の方が圧倒的に多いからです。この娑婆では誰もが力を得ることを目指します。しかし、多くが思うように力を得るわけではなく、我慢を強いられていく側になる。また、力を得た者も最後は力を失いこの世の生を終わっていく。それで人間がつくる世の中は、我慢する、我慢させられる世の中になっているということで忍土と翻訳します。

高山1組 不遠寺住職
企画会議副座長 四衢 亮



『高山市民時報』ミニ法話『響』8月の寄稿者

- 堤 唯見氏 (高山2組浄願寺住職)
- 四衢 亮氏 (高山1組不遠寺住職)
- 三枝 正尚氏 (高山2組随縁寺住職)
- 江馬 雅臣氏 (益田組賢誓寺衆徒)
- 澤邊 恵亮氏 (高山2組誓願寺住職)

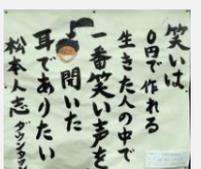
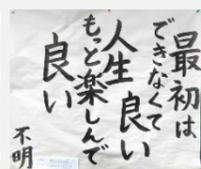
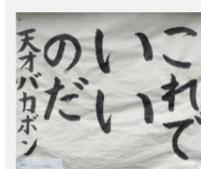
web ひだご坊でも「一口法話」配信中!
※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

出版物の入庫について



在庫切れとなっておりまして、左記の2冊が入庫いたしました。

中高生の法語掲示



大泉信吾(荘白川組明善寺)様より、お仏供米をお納めいただきました。ありがとうございました。高山別院

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2022年8月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
1	月	6:30	別 暁天講座・飛騨学場	本堂・御坊会館
2	火	6:30 19:00	別 暁天講座・飛騨学場 組 高山2組 教化委員会	本堂・御坊会館 研修室
3	水	6:30 7:00	別 暁天講座・飛騨学場 別 半日華	本堂・御坊会館
4	木	6:30	別 暁天講座・飛騨学場	本堂・御坊会館
5	金	9:00	別 飛騨学場	御坊会館
6	土			
7	日			
8	月	19:00	教 宗会報告	研修室
9	火			
10	水			
11	木	13:00	別 大谷婦人会定例 法話：輪番	御坊会館
12	金			
13	土	7:00 7:00	別 前住上人ご命日 別 一日華	本堂
14	日			
15	月			
16	火			
17	水			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
18	木			
19	金	13:00	教 高山1組 所長巡回・組会	御坊会館
20	土			
21	日			
22	月			
23	火		破棄	
24	水			
25	木	13:00	教 高山2組 組会組門徒会総会・所長巡回	御坊会館
26	金	7:00	別 半日華	
27	土	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	日	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話：佐藤義晃氏(了徳寺住職)	本堂
29	月			
30	火	15:30	組 高山1組 組会	
31	水			

2022年9月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

55	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1	木	13:30	教 益田組所長巡回	11	日	16:30	教 荘白川組所長巡回
4	日	13:00	別 納骨経	13	火	13:30	組 高山2組組会
5	月	14:00	七 全飛組門徒会研修	14	水	13:30	教 解放協議会 輪読会
7	水	14:00	教 解放推進協議会	15	木	19:00	組 高山1組帰敬式法座
11	日	13:00	教 清見組所長巡回				